

クリシギゾウムシの発生推移と発生地域

農業研究センター 果樹研究所 病虫化学部

研究のねらい

クリシギゾウムシの発生は、地域や標高によって異なることが知られている。しかし、本県では地域毎の発生量や発生時期について過去に調査された実績がなく、現地では一律に防除が行われている。

そこで、地域別・標高別にクリシギゾウムシの発生量および発生時期を調査し、防除が必要な地域を明らかにした。

研究の成果

1. クリシギゾウムシによる被害の発生時期・発生量は、標高によって差がみられた。

標高	発生始め	発生量
500 m以上	9月10日以前	多い
300 ~ 400 m	9月20日	多い
200 m未満	10月2日	少ない

2. 標高 300 m以上の産地では、クリシギゾウムシの産卵時期と早生から晩生クリの収穫時期が重なり、全ての品種で被害が認められる。
3. 標高 200 m未満の産地では、クリシギゾウムシの産卵時期と早生・中生クリの収穫時期は重ならず、被害も極めて少ない。また、晩生クリの収穫時期ともほとんど重ならず、収穫終期間に若干の被害が認められる程度である。
4. 標高 200 m未満の産地で収穫される早生品種では、クリシギゾウムシを対象とした臭化メチル薫蒸を行う必要はない。しかし、薫蒸処理はクリミガ・モモノゴマダラノメイガの防除も兼ねており、省略する場合はこれらの害虫による被害果を選別・除去する必要がある。

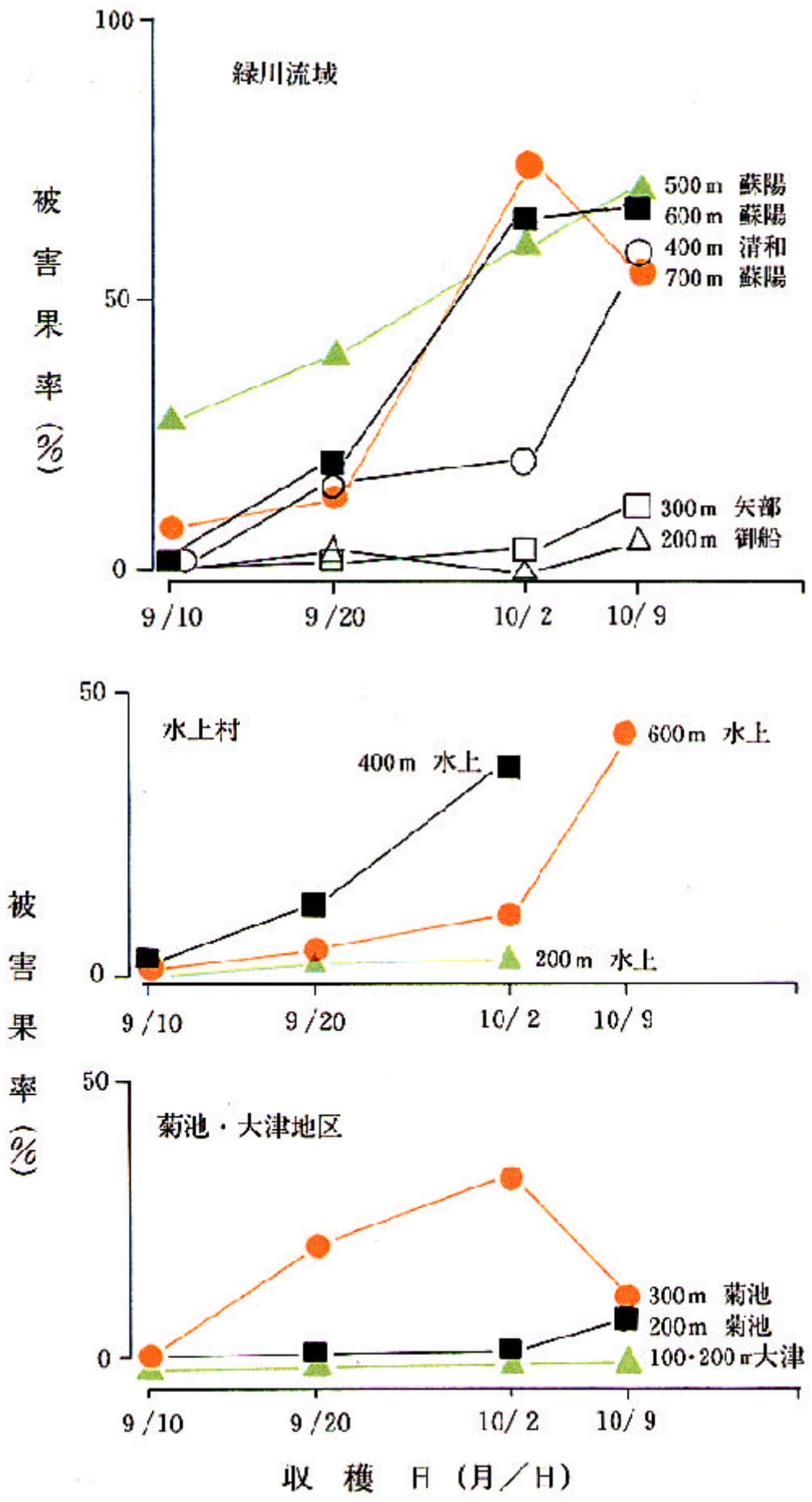


図 調査地点毎の被害果実率の推移